

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000788), 法人名 (株式会社 アイケア小樽), 事業所名 (グループホームアイケアおたる), 所在地 (〒047-0017 小樽市若松2丁目1番18号), 自己評価作成日 (平成29年3月3日), 評価結果市町村受理日 (平成29年4月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

とても立地条件が良く、住宅に囲まれ子供達も多く、外遊びをしていると声が聞こえ、入居者様も自然と笑顔になっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172000788-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年3月17日(金))

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣には、病院・コンビニ・市場・銀行・学校・幼稚園が点在し、古くからの住宅地に位置しており、静かで落ち着いた住環境にある。リビングの大きな窓からは通学する子供達の姿や声が聞こえ、毎日の楽しみであると共に利用者の穏やかな笑顔が見られる。管理者及び職員は、アットホームな雰囲気のみならず、まるで自分の家にいるかのようにリラックスした時間を過ごせるように、さりげなく寄り添い、長年の信頼関係を構築している。一人ひとりの身体機能に合わせたレクリエーションを日課とし、体操・ぬりえ・風船パレー等、事業所内でも楽しく過ごせるよう工夫しており、ネイティブ講師による英語のボランティア訪問や、台湾の研修生の受け入れもしている。町内の夏祭りには、事業所前が子供みこしの休憩場所になっており、利用者子供達の交流が見られ、昔馴染みの場所での暮らしを実感できる活動を積極的に取り入れている。さらに利用者の日々の行動や支援経過を記録した『介護記録』は、一ヶ月分をコピーし家族に送付しており、利用者が毎日どのように暮らしているか、一目でわかるように配慮している。地域密着型として、利用者本位を実践している温かい事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である、目配り・気配り・心配りを提供できるように、常に心に置き努力しています。	小樽アイケアグループの理念、『目くばり・気くばり・心くばり』は各ユニットに掲示し、事務室にはプライバシーポリシーを掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会に参加し、資源回収や祭典時、子供神輿の見学や参加等しています。	町内会に加入している。若松町会の祭りでは、事業所の駐車場が子供神輿の休憩場所になっており、利用者が子供達と交流できる場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、意見を聞かせて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、4回開催しており入居者様の状況等を報告しています。	運営推進会議は、年4回開催している。行事の報告や意見交換があり、今年度は協力歯科医院院長による、『口腔ケアの重要性について』の研修会を開催した。	運営推進会議は、事業所のサービス内容を明らかにすることにより、サービスの質の向上を図ることを目的としている。ヒヤリハットや事故報告の開示と、会議終了後は出席者及び利用者家族に解りやすく整備した議事録の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会等に参加して、行政の理解に努めて居ます。	行政とは、ケアサービスの疑問や質問等を随時相談し、日常的に連絡を取り共にサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、良いサービスを提供できるように、取り組んでいます。	身体拘束委員会があり、マニュアルも完備している。日中玄関は施錠せず、鍵をかけた自由な暮らしを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後は、研修等に参加したいと思っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の場を設けたいと思います、後見人を必要とされている入居者様は1名です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章や口頭での説明をさせて頂き、疑問に関してはいつでも、対応させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、ご家族様からの要望や意見等を聞く事が出来る様努めています。	玄関に意見箱を設置している。月に一度、利用者の毎日の状態を時間をおって記録した、『介護日誌』を家族に送付し、日々の介護状況を報告している。	利用者の事業所での生活は、家族にとって大きな関心事であるとともに、不安となる場合がある。家族が安心して生活するための情報の一つとして、日々の出来事や外出等の内容が伝わるように、写真やコメントが入った事業所独自の機関誌の発行を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけ、意見等を聞き、運営に反映できるよう、努めています。	職員参加のフロア会議があり、意見や提案を聞く機会がある。そこで出た意見は、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の参加努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	環境整備に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人様やご家族様と十分な面談で、要望等聞くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や、要望に関しては十分な話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前に利用されていた、サービス等は相談の上、その方のニーズ添っていきたいと思います。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は、家族と認識しています、お互いに協力しながら、関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子は介護日誌記載し、ご家族様にも送り報告や連絡を密に取り、共に築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	段々と、馴染みの場所が薄れている方もいらっしゃいます。その一方、ご家族と馴染みの美容室に行ったり、外食に出かけたりと、さまざまです。馴染みの場所を聞いて、ドライブ等に出掛けたいと支援に努めています。	利用者の、昔からの趣味や生活歴に応じて支援をしている。時折訪問するボランティアや、事業所内行事等も馴染みになり楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	英会話やカラオケ等を通じて、お互いを理解し合えるよう機会を持つように努めます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があった時には対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や訴えがあった時には、出来る限り希望を聞く様にしています。	センター方式のアセスメントを活用し、利用者本位に検討するようにしている。個々の希望・要望は記録し全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の中で、ご本人や家族から、聞き取り把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録をもとに、その日の様子を把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から、ニーズを聞きプランを立案し、その人らしい生活が送れるように作成しています。	利用者・家族の意見を計画に反映し、利用者が望む生活が達成できるよう取り組んでいる。変化が生じた場合は随時見直しを図り、状態に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日、気づきがあったら申し送りに記録し、職員で共有して次回の計画に、活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	残存機能の低下を防ぐ為、毎日体操を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や地域の消防署と連携を取り、年2回実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族が希望されている、医療機関に受診されている。月2回の往診や訪問看護師と連携をとり、また薬剤師から、服薬に関する指導も受けており、訪問歯科にも対応しています。	利用者の健康管理は、医師による月2回の訪問診療・看護師による週2回の訪問看護があり、24時間体制で連絡が付く。訪問歯科院長は運営推進会議で、勉強会を開催している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の指示により、訪問看護が入った時に、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の注意点等を話し合い、連携を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に説明、ホームでの対応をしています。	『みとりに関する係る指針』を策定し、入居時に説明をしている。その後何度か家族や関係者と話し合いを進めており、看取り介護に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態変化の対応は、指導されています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や町内会の協力もお願いしています。	消防署の協力のもと、近隣住民参加で年2回避難訓練を実施している。職員の緊急連絡網も整備されているが、災害時備蓄品等はまだ検討中である。	自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、倒れる危険のある家具や電気製品等の固定、さらに飲料水・食料品・ポータブルストーブ等の、災害備蓄品の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけをはじめ、楽しい生活が送れるように、対応しています。	利用者の尊厳を重視し、プライバシーを損ねることがない様に、言葉づかいに注意しながら対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを多く、そばに寄り添うように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせた、日常生活を過ごせるよう対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の理髪や服装等気をつけて、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事月には、要望食を提供しています。	利用者の希望や、嚥下状況に合わせた食事を提供しており、会話が弾むように職員と一緒に食卓を囲んでいる。楽しみとなる食事を提供するために、出前も検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの良いめにゆー		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し週2回義歯の消毒を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけにて、トイレ誘導を行っています。	利用者個々の排泄パターンを把握したトイレ介助を行っている。トイレでの自立排泄ができるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操を行い、水分を摂っています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴やシャワー、清拭をしています。	利用者の希望する曜日・時間に入浴できるよう支援している。入浴拒否傾向の利用者には、時間や気分を変えたり声かけの方法を工夫している。状況に応じ清拭やシャワー浴に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人にあわせ、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬剤師から薬の説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせ、楽しめる様に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に行事を行い、入居者様とコミュニケーションをとる様に心掛けています。	玄関前のベンチでの外気浴や、季節に合わせた外出行事を行っている。利用者の希望を重視した外出計画を立て、実行できるように考慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	好みや要望に合わせ、入居者様がお金を使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、入居者様で電話を使いたいとの、要望はありませんが使いたい時には、いつでも使える様にはしています。月に一度は、介護日誌等を送付しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂などの共用空間は、常に整理整頓され清潔にして気持ち良く過して頂いています。	居間は日当たりが良く、広い窓からは近隣の住宅や道行く人を眺められ、地域での生活が身近に感じられる。トイレや風呂等の各所に手摺が設置され、安全面に配慮した造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに話をされたり、新聞等を読んだりと穏やかに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談され、心地良い空間を作られています。	利用者の居室は、家族とともに危険箇所がないかなどの点検を行い、安全に居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を活かし、洗濯物たたみや新聞たたみ等リハビリを行っています。		